

文学部史学地理学科

【教員養成の目標】

文学部史学地理学科は、「教科や児童・生徒指導において適切な見識（判断力）」と「教職において気魄（責任感）」を持ち、「人間性が豊かな誠意（真心）」や「職務において勤労（実践力）」にもとづいて生徒の指導にあたることのできる「専門職として必要な資質・能力を有する教員」の養成を目的とする。

具体的には、学びに対する真摯な態度と困難に立ち向かう強い意志、論理思考能力や相互理解への姿勢、社会貢献力、社会性などの育成を重視しつつ、今日求められる「主体的で対話的な深い学び」を担うことのできる中学校社会科（1種）、高等学校地理歴史科（1種）の教員、「国際社会の進展に寄与できる人材」の養成を目標とする。

なお、本学科は、考古・日本史学コースと地理・環境コースで構成しており、上記の目標に加え、考古・日本史学コースでは日本の文化・伝統に基づく歴史学の幅広い専門的知識、地理・環境コースでは日本と世界の歴史的形成過程や生活・文化の地域的特性に関する専門知識を活かし、適切な教育的指導のできる識見と人格を持った人材の養成を目指す。

【当該目標を達成するための計画】

文学部史学地理学科の教員養成の目標を達成するために、教育課程の編成にあたっては各コース相互の専門科目を取り入れ、有機的連関性を持ったコースのカリキュラムを編成する。

学科共通科目においては、日本の近世・近代・現代史を通史的に理解することによって、歴史的思考力を身につける「日本歴史」や、自然地理学と人文地理学に含まれるすべての系統地理学、世界の諸地域を対象とした地誌学を学ぶ「グローバルな気候環境」や「食と農の地理学」などの科目を配置する。

さらに、近年重視されている防災教育に関する科目（「防災の地理」や「地域の気候と災害」）などの特色ある科目を開講し、現代世界の地理的な諸課題に対して広い視野と理解力を養う。

また、これらの学科共通科目に加え、日本の文化・伝統に基づく歴史学の幅広い専門的知識、日本と世界の歴史的形成過程や生活・文化の地域的特性に関する専門知識を養うためにコース別科目を設置する。

考古・日本史学コースにおいては、日本の文化・伝統に基づく歴史をより専門的に学ぶために、PBLやグループ・ワークやアクティブ・ラーニングをともなう「史料学実習」や「考古学実習」を設置するなど、「文献」と「モノ」による歴史的空間の復元を目指した特色あるカリキュラムを編成する。

地理・環境コースにおいては、「地域調査法」や「地理学野外実習」など、地理的な空間の現象を分析するための地図、地域調査、地理情報システムやリモートセンシングなどの地理情報解析ツールを学ぶアクティブ・ラーニングをともなう科目を充実させる。

これらの学びや教職に関する専門的な学び、学外における実践的な学びを通し、現代の日本や国際社会で起こっている様々な問題に対して、主体的に考え取り組むことができる人材及び教員、現代世界の地理的な諸課題に対して広い視野と理解力をもった人材及び教員を養成する。